

## 第 38 回 日本大脳基底核研究会プログラム

瀬川昌也先生の知見を深堀する ～瀬川病・睡眠・トゥレット症の基礎と臨床～

8月3日(土) 13時開催

開会あいさつ 星野 恭子

テーマⅠ トウレット症をネットワーク障害としてとらえる (臨床)

CBITで改善するチックとはいったい何か

日本CBIT療法協会 代表 木田 哲郎 先生

(補足 昌仁醫修会 瀬川記念小児神経学クリニック 星野 恭子)

トゥレット症の Gating SEP

昌仁醫修会瀬川記念小児神経学クリニック 木村 一恵 先生

トゥレット症の衝動性眼球運動

杏林大学医学専攻 病態生理学分野教授 寺尾 安生 先生

難治のトゥレット症のDBS治療

国立精神・神経医療研究センター 脳神経外科 木村 唯子 先生

15時半～

テーマⅡ 睡眠(基礎)

ヒト胎児のREM睡眠の発達

九州大学 医学研究院 保健学部門教授 諸隈 誠一 先生

REM睡眠開始における扁桃体基底外側核のドーパミンシグナル

京都大学大学院薬学研究科医薬創成情報科学専攻 システムバイオロジー分野

准教授 長谷川 恵美 先生

MOLECULAR LINKS BETWEEN SLEEP AND MOTIVATION

筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構 教授 Michael Lazarus 先生

18時～20時 懇親会 瀬川祥子様 バイオリン演奏

20時～21時 ナイトセッション(一般演題)

8月4日 日曜日 9時～

テーマⅢ 瀬川病 (臨床・基礎)

瀬川昌也先生の瀬川病の発見

島田療育センター センター長 久保田 雅也 先生

瀬川病とプテリジン代謝異常

大阪市立大学 大学院医学研究科 障がい医学・再生医学寄附講座 特任教授

新宅 治夫 先生

瀬川病モデルマウスについて

東京工業大学大学院生命理工学研究科教授 一瀬 宏 先生

ドーパミンを可視化する

慶應義塾大学医学部薬理学教室 准教授 塗谷 睦生 先生

瀬川病の新薬について

東北大学 大学院薬学研究科 准教授 川畑 伊知郎 先生

患者様ブース 3つ(案)

瀬川病 子どもの早起きをすすめる会 トウレット協会